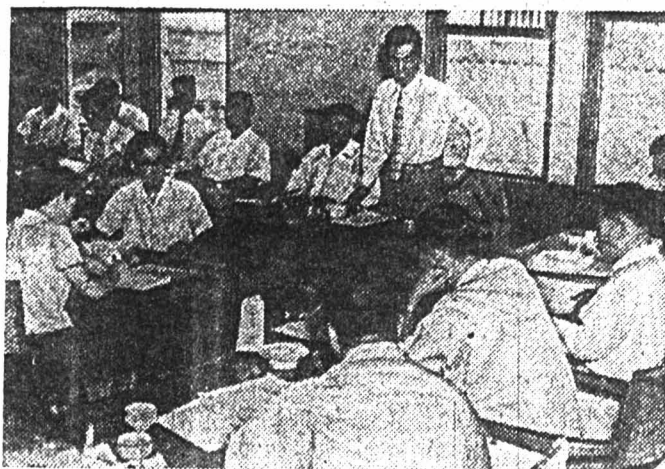


有機水銀説に反論

工場側 水俣病で発言



水銀説に反論する西田新目薬水保工場長

実証性のない推測

特別委
二転三転の熊大結論

水俣病の原因をめぐって熊大医学部文政省科学研究所はさる七月二十二日「有機水銀が原因ではないか」と発表、疑いの目を水俣市新日窒水俣工場の排水に向けて波紋を投げたが、工場側は五日ひらいた果敢会議と発表、疑いの目を水俣市新日窒水俣工場の排水に向けて波紋を投げたが、工場側は五日ひらいた果敢議会で、病気の原因が排水にあることを認めたものではない」とつけ加えた。

びつくるのは論理の飛躍である”とのべた。しかし同時に工場側は“来年三月を目標に排水のタメ池を三
四千万円かけてつくり、水銀などの『疑わしい固形物』はいっさい海に流さない計画である。”と排水の恒
久的管理対策を明らかにした。ただしこの計画は“化学工場での排水管理が全国的に問題になつてい
るのであり、病気の原因が排水にあることを認めただけのものではない”とつけ加えた。

排水管理施設つくる

来春を目標に計画中

この日は、葛側から西田、葛長、尾岡次長、徳江技術部長、上塚同次長ら七人が出席、朝大側もオプサーバーとして世良医学部長、大原理学部長ら十数人の研究陣が出席した。

席した。原理部長は十数人の研究陣が出席した。

席上西田正嘉氏は「有機水銀説に對して、丁場は研究に着手したばかりであり、これを否定も肯定もする段階ではないが、大学の発表内容には科学常識からみて多くの

説がある」と加へ書き、根大側
 の説がマンガン説三十二年マン
 ガン、セレン、プラスアルフェ
 説三十二年、マンガン、セレ
 ン、タリウム説三十二年と三三
 年、これが今永銀説になった
 経緯をとりあげ、説が変るたび
 に、それが精確として打ち出され
 た。原因の発表は社会に対する影
 響も大きいから慎重にしてほし
 い」と大学の発表態度を批判し
 た。

② 銅則所見をめぐって、同じ脈入内の救護が違つた算解をもつてゐる。従つて、二王「巨」發表された銅則所見も完全に妄観的のものとは思へない。

③ このような説論において、なぜ有機水銀といふ不明確な表現をもつて断定的な發表をしたのか、理解に苦しむ。しかも、無機水銀が生体内で有機水銀に変化するというのは、何と客観的には裏証されない単なる推論ではない。

に好する。毒物の溶解を助ける。よ
のよにのべた。

①熊大が動物実験に使つたのは、
有毒なエチル水銀とエチルリン
酸水銀、有機水銀の一種で水や
アルコールに溶けやすい。
だが、熊大の二三の教室が十
場側の実験の積りで、水痘病
の原因とみられる毒物はこれら
エチル水銀、エチルリン酸水銀
とはちがう。それは有毒な魚食
顆を水やアルコール、アセト
ン、エーテルなどで処理して
も、これらの水銀が抽出されな
いことで明らかである。だから
熊大は有機水銀という大きな概
念をもち出し、無理に説明しよ
うとしている。

●事では昭和七年からアセトアルデヒドの合成に鹽酸水銀を、また十四年から塩化レニールルの合成に塩化水銀をそれぞれ触媒として使ってきた。これら水銀の二種が排水溝から海に流れ込み、灣内にあることは事實である。しかしこれらは相當昔から世界各地の化学工場に使われたものであり、これら水銀から有害物質が副生されたという文獻はまったくない。

一日も早く原因究明

西田水俣工
場長語る
結論は慎重に

西田新日、鹽水俣工場長は、県議会水俣病特別対策委員会に出席したあと記者団と会見、つぎのように語った。

工場内病院が原因の究明に当たっている。問題の塩化ビニールは昭和十六年から生産、一時中断して二十四年に再開し、生産量は二千

の容量をもち、水銀など固形物は全部ここで沈んでんさせ、上層みの質のいい水だけを海に流す。これは干潟排水に凝いがかけられたた

熊大帥では結論を急ぎすぎているのではないか。社会に対する影響が大きいために心配している。しかし私たちも市民の一人として病氣の原因を早く発見することをのぞむもので、工場側も技術部門と

六、七、八年から上昇してきた。しかし触媒として使う水銀はこの生産量と正比例してふえるものではない。それは生産技術が年々進歩しているためだ。

めというより、全国的に化学工場
の排水管理が問題になっているた
めで、工場が病気の原因を排水に
あることを認めただけではない。

「なまじうのは医学の立場に於てものよりまた強し」「なまじう強はなし」「いや。」